

代表質問

12月定例会では、9つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の発言順及び発言時間(答弁含む)は次のとおりです。

末来市川(111分)、創生市川・自民党第1(145分)、公明党(162分)、地域政党チームいちかわ(77分)、市民クラブ(77分)、新しい流れ(94分)、日本共産党(77分)、れいわ・無所属・共生の会(77分)、創生市川・自民党第2(94分)

※2次元コードから代表質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。ご覧いただけない場合は、恐れ入りますが議会事務局議事課までお問い合わせください(047-712-8673)。

地域政党チームいちかわ



丸金ゆきこ

野口じゅん

富家 薫

市川市文化振興

ビジョン

問 令和7年度に改定される市川市文化振興ビジョンは、本市の文化芸術行政が目指す姿を明確にするための重要な指針になると考える。そこで、本市が美術館の整備を行い、持続的な運営を成り立たせるためには文化振興ビジョンが掲げる市川市らしさを具体化し、他都市との差別化を図ることが不可欠なことから、次

答 現在の文化振興ビジョンは、平成12年度に策定された市川市基本構想における基本目標の一つである「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」を実現するための中・長期プランとして14年度に策定され、令和7年度に目標年次を迎えるものである。現在、次期文化振興ビジョン及び美術館構想の作成を進めており、次期文化振興ビジョンにおいて、

美術館整備に触れると共に、美術館整備の具体的な部分については、美術館構想が担っていくことから、両者の間には一貫性と整合性が保たれるという認識のもと、検討を進めている。



文化政策の方向性を明確に

市民クラブ



中町 けい

つちや正順

石崎ひでゆき

仮称インクルーシブ条例

ーシブ条例

問 高齢者や障がい者に優しいまち、誰にとっても住みやすいまちであり、市民が共に支え合う共生社会の実現を目指すべきである。明石市が市民と一体となり制定した「あかしインクルーシブ条例」は、様々な分野で優しいまちを実践し、野を定める共有理念条例という点が特徴である。令和7年度施政方針では「誰

答 「誰一人取り残さないまち」を掲げており、その裏付けとして、本市でも仮称インクルーシブ条例を制定すべきと考え、見解を問う。

などを定め、インクルーシブな理念のもとで様々な施策を推進しており、実効性は確保されている。その上



誰一人取り残さないまちを(第5期市川市地域福祉計画冊子より抜粋)

公明党



西村 敦

小山田なおと

川畑いつこ

浅野 さち

久保川隆志

中村よしお

宮本 均

大場 諭

安全安心な

朝の居場所

問 市は、小学校の始業前に子どもたちが安全安心に過ごすことができる朝の居場所を確保する取り組みを

実施する予定とのことである。各学校に対し、開門30分前に児童が昇降口前に何人いるかのアンケートを行ったところ、最も多い学校が15人、最も少ない学校が0人、全校の平均は8人とのことだが、昇降口前にい

なくても、自宅に1人でいることも想定されるため、朝の居場所ができることで1人で鍵を閉めて登校する児童は減ると考える。この取り組みは令和8年度から開始予定のため、早急な準備が必要だが、どのような運営を考えているのか。

答 8年度については、地域学校協働本部や地域ボランティアなど、地域の協力を得る形で進めていけるよう検討していく必要があると考えている。9年度についても、手法も含め調査する必要があると考えている。

問 令和7年11月に策定した市川市教育振興大綱具体化パッケージにおいて、7割以上の子どもが中学校卒業時点で英検3級相当の英語力取得を将来像に掲げているが、7割以上とした

答 接種対象者に対し勧奨はがきを送付するなどしたほか、広報いちかわやSNSにより、再度、接種期限の周知を行った。また、男

問 令和7年11月に策定した市川市教育振興大綱具体化パッケージにおいて、7割以上の子どもが中学校卒業時点で英検3級相当の英語力取得を将来像に掲げているが、7割以上とした

答 接種対象者に対し勧奨はがきを送付するなどしたほか、広報いちかわやSNSにより、再度、接種期限の周知を行った。また、男



市立小学校での英語学習の様子